



玉の江家図録

イ 5
34
1



玉縁向き多れ巻

初巻

○中臣壽詞 壹丁

○大安殿 六丁

○立田川 七丁

○所々ありし古(孝)の執事(孝)八丁

○悠紀主基 九丁

○水墓の岡 十丁

○(孝)の史 十二丁

○(孝)の(孝) 十三丁

○儒者の皇國(孝)を(孝)ありし(孝) 同丁

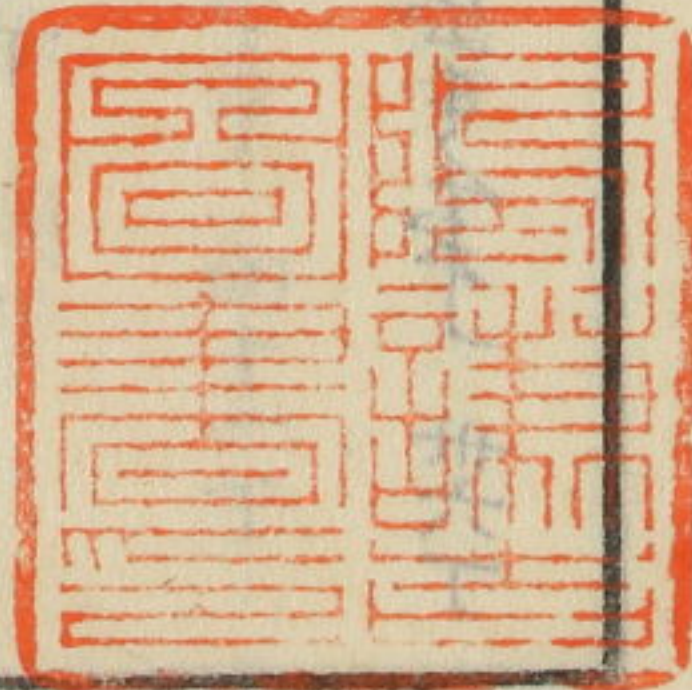
○古書(孝)六丁條 十三丁より 十九丁まで ○中浪門宣胤卿の記 十九丁

○吉田兼俱卿日本紀御談義乃事 廿一丁

○三社の託宣といふ物 廿二丁 ○神拜口傳といふ事 同丁

○玉のりま

○一



○歌の法會をどし文 廿三丁 ○鎌倉右大臣の名みせり後含の同丁
 ○もろこし文をもむまき事 同丁 ○学問して道を知る事 廿四丁
 ○かきもん 同丁 ○うらぶら 廿五丁
 ○おろしとをくるとニッほる事 廿六丁 ○東宮をめぐらふゆづり事 廿七丁
 ○平戸記 廿八丁 ○四條天皇御謚のきざり 廿九丁
 ○後鳥羽天皇御謚のきざり 同丁 ○順徳天皇の御事 三十丁
 ○服ぬぎの次第 三十一丁 ○天皇禮服御冠のきざり 三十二丁
 ○加賀國白山社の祭 三十三丁 ○漢意 ニヶ條 同丁
 ○清國殿鬼神をききむといへる事 三十五丁
 ○言をききむといへる事 同丁 ○あきふる説を出さる事 廿六丁

○かきめりし事 三十七丁 ○音便の事 三十八丁
 ○官名の事 三十九丁 ○位階の正從の訓の事 四十一丁
 ○濁るる事 四十二丁 ○かきむら 同丁
 ○古今集の長歌の事 四十三丁 ○大神宮の茅葺の事 同丁
 ○かき國の官神事と喪事とをいへる事 四十四丁
 ○後京極攝政乃清の事 同丁 ○杉の事 四十五丁
 ○同郷の旗 同丁 ○同郷の旗を建礼門院の事 同丁
 ○五十日百日の事 同丁 ○むら 同丁
 ○実名をいふをむらとす事 四十丁 ○まの如く病を歡樂といへる事 同丁
 ○清水の事 同丁 ○鎌倉中酒毒の事 同丁

○北條時頼のいははの句 四十八丁 ○宗室親王の事と浪息存とせしもの 四十一丁

合六十ヶ條

二ヶ條

櫓乃落景

○御即位後奉幣諸神祝詞 壹丁 ○圓融太上天皇紫野御子日の事 二丁

○長保元年女御入内屏風歌 四丁 ○内裏焼神鏡焼損事 五丁

○四角四堺祭の事 同丁 ○賀茂行幸の時の宣命 六丁

○法隆山まゝ桂葵とる山の事 七丁 ○天皇御元服の事を山陵喜路の宣命 同丁

○寛仁二年十月皇后節會の夜太閤法郎の事 八丁 ○又立田川 同丁

○水せ瀧川 三十丁

○兩部唯一といふ事 十二丁 ○道ふかふとぬ世中おととを 十二丁

○名をとおまふ事 同丁 ○宗祇なりしが生事 十三丁

○かゝ國聖人の世乃祥瑞といふ事 同丁

○姓氏の事 二ヶ條 同丁 ○苗字 十六丁

○あざ名といふ物の事 同丁 ○歌書の註を抄とぶ事 十七丁

○久安五年忠通公大政大臣宣命 同丁

○行成記書寫の事 十八丁 ○六條攝政基實公の権の事 同丁

○神典のときさほ 十九丁 ○神祇の歌 二十丁

○古今集月抄の事 廿二丁 ○風雅集の歌 同丁

○好むよむ事 廿二丁 ○ついにさあつてはくといふのけり 廿三丁

- 國を州といふ事 廿四丁
 - 儒者名をみざる事 廿五丁
 - 忌日祥月奉忌の事 廿六丁
 - 鏡女王類田王 廿八丁
 - 春記 三十丁
 - 松島の記事といふ物 同丁
 - 攝津 卅一丁
 - そりに社の字をせざる事 卅二丁
 - うはな物縁の事 同丁
 - いせの國なる辛洲社 卅三丁
 - ふみやもふんえやまの事 卅四丁
 - おのぶ物すまむの事 卅五丁
 - あごの事 卅六丁
 - おのれはの事 卅七丁
 - 師の流るる事 卅八丁
 - わがをいふ事 卅九丁
 - 五十連音をむらじに唱へる事 四十丁
 - わがをいふ事 四十一丁
 - わがをいふ事 四十二丁
 - 五十連音をむらじに唱へる事 四十三丁
- 合四十八條

- 三の巻 卅四丁
- 多岐の事 卅五丁
- 五十師原山邊御井 壹丁
- あつらひの事 卅六丁
- かゝ國の事 卅七丁
- かゝ國の事 卅八丁
- かゝ國の事 卅九丁
- かゝ國の事 四十丁
- かゝ國の事 四十一丁
- かゝ國の事 四十二丁
- かゝ國の事 四十三丁
- かゝ國の事 四十四丁
- かゝ國の事 四十五丁
- かゝ國の事 四十六丁
- かゝ國の事 四十七丁
- かゝ國の事 四十八丁
- かゝ國の事 四十九丁
- かゝ國の事 五十丁
- かゝ國の事 五十一丁
- かゝ國の事 五十二丁
- かゝ國の事 五十三丁
- かゝ國の事 五十四丁
- かゝ國の事 五十五丁
- かゝ國の事 五十六丁
- かゝ國の事 五十七丁
- かゝ國の事 五十八丁
- かゝ國の事 五十九丁
- かゝ國の事 六十丁
- かゝ國の事 六十一丁
- かゝ國の事 六十二丁
- かゝ國の事 六十三丁
- かゝ國の事 六十四丁
- かゝ國の事 六十五丁
- かゝ國の事 六十六丁
- かゝ國の事 六十七丁
- かゝ國の事 六十八丁
- かゝ國の事 六十九丁
- かゝ國の事 七十丁
- かゝ國の事 七十一丁
- かゝ國の事 七十二丁
- かゝ國の事 七十三丁
- かゝ國の事 七十四丁
- かゝ國の事 七十五丁
- かゝ國の事 七十六丁
- かゝ國の事 七十七丁
- かゝ國の事 七十八丁
- かゝ國の事 七十九丁
- かゝ國の事 八十丁
- かゝ國の事 八十一丁
- かゝ國の事 八十二丁
- かゝ國の事 八十三丁
- かゝ國の事 八十四丁
- かゝ國の事 八十五丁
- かゝ國の事 八十六丁
- かゝ國の事 八十七丁
- かゝ國の事 八十八丁
- かゝ國の事 八十九丁
- かゝ國の事 九十丁
- かゝ國の事 九十一丁
- かゝ國の事 九十二丁
- かゝ國の事 九十三丁
- かゝ國の事 九十四丁
- かゝ國の事 九十五丁
- かゝ國の事 九十六丁
- かゝ國の事 九十七丁
- かゝ國の事 九十八丁
- かゝ國の事 九十九丁
- かゝ國の事 百丁

- やうしと 十六丁
- 神武天皇の御陵 十七丁
- こがとりの洞 十八丁
- あし塚 十九丁
- 飛鳥の宮く 同丁
- 植村禹言とりの人 同丁
- あふふいとりの雀 二十丁
- むろの本 同丁
- つぐのみづけ 廿一丁
- 神の清ぬきをりける世にたは海 同丁
- 選子内親王の御歌 廿三丁
- 伊勢例幣使發遣参向路次事 廿四丁
- 諸社遷宮 廿五丁
- 宣命料紙の色 同丁
- 新任國司廳宣神事と先きまきり 同丁
- 福来病 廿六丁
- 歌みほけりごと 同丁
- 天徳四年内裡焼亡事 同丁
- 放生會音樂事 廿七丁

- そらうりた國をわたりて 同丁
- 朝臣との字あり 廿八丁
- ふのれふ 同丁
- 太宰帥大貳の任ふたむく 廿九丁
- 太宰帥字のみみ 同丁
- 妖字のり 同丁
- みらのくにわ五月五日ふら川をぬくといふ 三十丁
- 火あやふ 卅一丁
- はらうり 卅二丁
- 下樋小川 卅三丁
- 陵王の御手お名 同丁
- 夢を壁とすえふ孔 卅三丁
- 合四十六ヶ條
- 四の巻
- しんれ草

○ 如郷 壹丁

○ 契沖やじりちまゑる巻 同丁

○ 何くもがさ 三丁

○ 熊神籬 同丁

○ 内人 同丁

○ 世の人ぶらひけしきい 同丁

○ せむきにしほの海い 八丁

○ 沙石集 三ヶ條 十丁

○ 百首の歌 同丁

○ 清といわ河のほらぎのつ 十三丁

○ うきと母 二丁

○ 者といま 同丁

○ 天歴神 四丁

○ 撞賢木嚴之御鬼 五丁

○ 崇神紀 ワケカ 小兒の神託の詞 六丁

○ 佛の前乃きり物おとく 七丁

○ 前後と後のかさる 九丁

○ 東屋のまや月夜をし標 十三丁

○ 女一宮女二宮あやみ唱へ 同丁

○ 清といわ河のほらぎのつ 十三丁

○ 十千の訓 同丁

○ 東鏡 小まら せる事二つ三つ 十四丁

○ 鎌倉頼經將軍おぼくめ 同丁

○ 猿の舞 まよ のり 十六丁

○ 某男 ナニヲノコ の糸 同丁

○ いくの歌 十七丁

○ 櫛 を 十九丁

○ 白氏文集 同丁

○ 廿日草 廿一丁

○ 草 ま の物 同丁

○ 乙字おとく 同丁

○ 何や免のま 十五丁

○ 四一半 同丁

○ 唐船の事 同丁

○ 官 と の糸 同丁

○ 人の お の後乃きり 同丁

○ 櫛 を 二十丁

○ 歌人 ま の集といま 同丁

○ 聖武天皇 ハツセ け菊花のほら 同丁

○ 長谷 ハツセ を ま の物 廿二丁

- ほろぎを時名とある 廿二丁
- 法親王入道親王 同丁
- 孝部王記 同丁
- 法親王のちり免 廿三丁
- 門院とや次御号の事 同丁
- 天皇法院号の事 廿四丁
- 高階為章の名のとく 同丁
- 歌合の事人の名をかきまゝ 廿五丁
- 金葉集の事 同丁
- 續詞花集 廿六丁
- 小野道風書る古今集 同丁
- 佐保姫の社 同丁
- 為兼の事 同丁
- 花園 廿七丁
- そらそら経書といふもの説よりある事 同丁
- おろこ一人の説ある事とていふ事 廿八丁
- 西郡神道三ヶ條 同丁
- 海國の事とて國はさやあつた

- 似るもの同きとある事 廿二丁
- 初学はつとまきやとある事 廿三丁
- 弥八初をさへいふ事 廿四丁
- 小大君 同丁
- 月草の事 廿五丁
- 持明院 同丁
- 土御門の内裏 同丁
- 大神宮の外宮 廿六丁
- 祝部成仲九十賀 同丁
- 清輔朝臣尚齒會 廿七丁
- 奏壽宣命の儀 同丁
- 大内政弘親位の事 廿八丁
- 伏見天皇御即位の次第 同丁
- 齋宮諸司 四十三丁
- 古言清濁考の事 同丁
- 兼好法師の詞の事 四十五丁
- うたをほろぎの事 四十七丁
- やゝをまゝ 同丁
- 学者の海がうらなひをまゝ 四十八丁

○穀を後田彦神のそしへといふ事 四十九丁

○名羽羅宮 五十丁

○ほむまぎの神 同丁

○土佐日記の附注 五十二丁

合八十八條

五の巻

枯野のそし

○熊澤氏の神典を論する事 壹丁

○あやしき事此説 二ヶ條 三丁

○漢籍と神祇典とのくらめ 五丁

○平太政大臣の歌 六丁

○かきごえ 同丁

○とこやといふ言ひ早字を考ふる事 七丁

○中らるる諸王おやりする事 同丁

○車比紋の事 同丁

○老鷹のうと 同丁

○さうかしの字 同丁

○かんでのち路 八丁

○古今神傳換 同丁

○いうてといふ事 同丁

○太上天皇の神奈治 同丁

○物を清むる水と水をそくする事 同丁

○くらろん 九丁

○菩薩樂 同丁

○かいらうといふ事 同丁

○むさしといふ事 同丁

○三郎 十丁

○ほいかき 同丁

○羽のそとらうら花 同丁

○おこそはいらま 十二丁

○ちくまの女神の社事ある事 同丁

○大神宮ふ諸人のまじりつる事 同丁

○狂歌 十二丁

○たを 同丁

○機タのうらりといふ物 同丁

- 江戸の地名これ^三 同丁
- ちくちやう 同丁
- えむき三郎 十四丁
- いせ物語の^{ニテ}名本たる 同丁
- 右近の場の^{ニテ}名本たる 十九丁
- 東宮の御息所^{ニテ}東宮の女御 廿二丁
- いせ物語をよみ^{ニテ}いせ物語をよむ一丁二丁 廿四丁
- 業平^{ニテ}朝長^{ニテ}のいよもの言はれ^三 同丁
- 和泉^{ニテ}和字たる 廿四丁
- 立田山小づ^{ニテ}の跡 廿七丁
- 鴨立澤 十三丁
- ふらん 同丁
- いせ物語の中^{ニテ}に^三 同丁
- 志のぶ^{ニテ}を^{ニテ}ら^{ニテ}ざり 十七丁
- 志やどり^{ニテ} 廿丁
- みち^{ニテ}に^{ニテ}國む^{ニテ} 同丁
- 春日殿八月十五夜月見^{ニテ}の歌^{ニテ} 廿五丁

○合四十七ヶ條

- 書^{ニテ}の^{ニテ}物^{ニテ}の^{ニテ} 二丁
- 業平^{ニテ}朝長^{ニテ}の^{ニテ}目^{ニテ}の^{ニテ} 同丁
- 菅家^{ニテ}萬葉集 四丁
- 彦根^{ニテ}寺 同丁
- 賀陽院^{ニテ}歌合 六丁
- ぞく^{ニテ}の^{ニテ}事 七丁
- 南殿^{ニテ}の^{ニテ}階^{ニテ}乃^{ニテ}櫻橘 九丁
- ま^{ニテ}か^{ニテ}の^{ニテ} 三丁
- 寛治^{ニテ}五年^{ニテ}女御^{ニテ}入^{ニテ}内^{ニテ}夜^{ニテ}法^{ニテ} 同丁
- 鳥羽^{ニテ}殿^{ニテ}の^{ニテ}逐^{ニテ}日^{ニテ}看^{ニテ}花^{ニテ} 同丁
- 内侍^{ニテ}所^{ニテ}御^{ニテ}神^{ニテ}樂 八丁
- 蘇我^{ニテ}馬子^{ニテ}の^{ニテ}事 十丁

- 一條天皇かきこきせ給ひて厚詔を給はるる御筆此物のり 十一丁
- 延久の御世ふ始りて記録所をおこしり 十二丁
- 安徳天皇の御事 同丁
- 後鳥羽の御事 十三丁
- 縣居大人の傳 同丁
- 花のきこえ 十五丁
- 神明鏡 十六丁
- 笛の孔 十七丁
- 寝づりしり物 十八丁
- 持佛堂 同丁
- 天皇御前ふ直り新しきり 十九丁
- さぬきの國の山お谷あやしきり物 同丁
- 神社を宗廟社稷とすり 廿二丁
- 人と人とのり 廿二丁
- 東京西京 同丁
- むすし女御の位階 同丁

- 八本 同丁
- 客殿 小宮 同丁
- 百段系掛智大和大路和讃 漢讚 埴とち 廿三丁
- 脩明門院ふ強源四部入りしり 同
- 大名 廿四丁
- 吉備大臣の名 同丁
- 國造 廿五丁
- 築紫君石井イナがり 同丁
- 延喜式五十卷ありて十卷を
- 神祇式ありり 廿七丁
- なりきり 同丁
- 万葉集ありしり辭ふ義之と大王と書ゆり 廿八丁
- 阿のまらぬ 三十丁
- 夢のふき橋 卅一丁
- 節下大臣 卅二丁
- 淺草といふ名 同丁
- 近江國の君が畑といふところ 同丁
- 志多川山笠縁あり 卅三丁

- さぬきの國戸の敷 卅五丁
- あゐもち 同丁
- 木やうあはる猿 卅六丁
- い〜氷 同丁
- 峠 同丁
- く〜く 卅七丁
- 臺のいろはをかろす 同丁
- 玉あ〜巻 卅九丁
- 古き名どころを尋ねる 卅二丁
- 俵といふも 同丁
- 免うか〜 同丁
- ほ〜しれ笛をぬくる 同丁
- 〜〜が足をとく 同丁
- 鶏〜をけ〜 同丁
- 火ほり〜 卅七丁
- 岩〜〜 同丁
- 神今食 卅八丁
- かあ〜〜 四十丁
- 名なき里れ〜 四十四丁
- 朔日の礼 同丁

- 祇園會所山梅 四十五丁
- 合六十七々條
- 天の下に改神事を告ぐとせしむ 同丁
- 七の巻
- あ景集一の巻を莫貴圓鄰の歌 壹丁
- 神社の祭る神を告ぐま〜〜 二丁
- おのら仕奉る神を告ぐ神の祭る海布〜 四丁
- 皇孫天孫と申は清号 同丁
- 直綴といふ衣 同丁
- 後架 同丁
- あ〜紙 五丁
- 百箇日 六丁
- 仁本杉葉法師がな〜〜時の事 同丁

- 手代 同丁
- 綾小路中將敦有於屋のり 八丁
- 人をあつて様といふり 同丁
- 神をとおおつるの形づくらしきり 九丁
- よの人の神社を物とびきりてあやとせしり 十丁
- 和泉國大鳥神社 同丁
- 唐の國人あつて國あつてをきり 十一丁
- おんごといふ國のすまび 十三丁
- 新猿樂記諸國の土産 同丁
- 大徳寺住持繪旨 同丁
- 手拍敷のり 十四丁
- 道風朝綱書勅判のり 十五丁
- 美材草神 十六丁
- みづのあきほしり 同丁
- 人くあしり 同丁
- 皇親の祿物を先賤價ふ賣り 同丁

- 伊勢大御神の佛をきりて給ふり 同丁
- 文倉 同丁
- 崇徳上皇賴長公の代をせ給ひて給ふり 十七丁
- 不如闕礼佛之勤全敬神之忠の詔 同丁
- 陸奥國五箇莊奉貢の事 十九丁
- 祈奉祭の猪のり 十九丁
- 女御多子名字のやと 廿丁
- 天皇御元服の時のこと 同丁
- 賴長公の印のり 廿一丁
- 物づくふんまをきり 同丁
- はらみせんといふ物の形 廿四丁
- 石見の海ふるまを過 同丁
- 朝鮮の人のやと 廿五丁
- ある人のやと 廿六丁
- さばがらと 同丁
- 土佐國ふ火蘇をきり 同丁
- かきり 同丁
- はらのやと 廿七丁

○ぬぐりくつ 同丁
 ○石がーりの魚 同丁
 ○淡海公を天智天皇の御子とせしむる説 同丁
 ○ちほふのばー 廿八丁
 ○天竺川 同丁
 ○佛名の野伏うづけ綿 同丁
 ○清代これ大嘗月日徳紀主基國郡 廿九丁
 ○肥後の阿蘇大宮司家菊地家のり隈府孔子堂の事 卅二丁
 ○御即位親王代禮服 卅四丁
 ○葵沖なりし御奉のい 卅五丁
 ○祇園の西門の前お大跡の在家 卅六丁
 ○おのこ取かて人清くを御へ 卅七丁
 ○そらこーお老子の説をいふこと 卅八丁
 ○道をいふこと 卅九丁
 ○香をいふこと 卅十丁

○まはるーふ春をいふ物まの人の佛法を信じてしる 同丁
 ○おの人佛のさむらのこと 卅一丁
 ○おの雅をいふ人の雅をいふこと 卅二丁
 ○おの雅をいふ人の雅をいふこと 卅三丁
 ○権馬樂といふ名の事 同丁
 ○吉野朝の公卿補任 卅五丁
 ○合六十五條
 ○ハ乃事
 ○おの下をいふ
 ○おのちをいふの事 卅六丁
 ○おのちをいふの事 卅七丁
 ○おのちをいふの事 卅八丁
 ○おのちをいふの事 卅九丁
 ○おのちをいふの事 卅十丁

○ 七五ちまゝのり 六丁
 ○ 歌もぬゝのり 同
 ○ かねてゝのり 十丁
 ○ 用換 同丁
 ○ 枕詞 同丁
 ○ 言蘇といひ 十三丁
 ○ 男の名ゆゑ 十四丁
 ○ 萬葉集の平知といふ 十六丁
 ○ 万葉集の多加といふ 十七丁
 ○ 某屋といふ 十八丁
 ○ 今人の歌文集のり 七
 ○ こゝろとて 同書 八
 ○ いまもやのり 十二丁
 ○ 筑前國續風土記 十二丁
 ○ かんあまのり 同
 ○ 出定後語といふ 十五丁
 ○ 某屋といふ 十九丁

○ 周公旦がゝる 二十丁
 ○ 蘇谷の成章といふ 廿一丁
 ○ 子 廿三丁
 ○ わらやをとおる 同丁
 ○ 續末 同丁
 ○ ちやが蘇 同丁
 ○ けりり病 同丁
 ○ ひく 廿五丁
 ○ ちまゝ 同丁
 ○ かねてゝ 同丁
 ○ 針のり 同丁
 ○ 将棋 同丁
 ○ 巻 廿四丁
 ○ 貴下 同丁
 ○ せら 同丁
 ○ 端 同丁
 ○ 一日 廿六丁
 ○ 針のり 同丁

○ぬき紙 同丁
 ○むすのりみ 同丁
 ○下向 同丁
 ○東宮御養治 同丁
 ○喜學五書とりみ 廿九丁
 ○十二巻人 同丁
 ○やゝあらしきもん 同丁
 ○咄 同丁
 ○大嘗 同丁
 ○降誕 同丁
 ○杉原の紙 廿七丁
 ○ちやうとくき 同丁
 ○但馬國の嶽のりて廿六丁
 ○中宮 同丁
 ○三ツがせく 三十丁
 ○法家の文とりみ 同丁
 ○伊勢勅使のせも人の教 廿二丁
 ○柳箱 同丁
 ○明日日 廿三丁
 ○八的 同丁

○祭小臨を神主を定むる 同丁
 ○あまのりみ 廿四丁
 ○厨子 同丁
 ○菊乃清文 同丁
 ○実葉瓜 同丁
 ○棧敷 同丁
 ○くらか葉 同丁
 ○きぬくろをぬき 同丁
 ○國守神拜 廿八丁
 ○中國 同丁
 ○万葉集ふしと和氣と稱 廿三丁
 ○上東門院 廿五丁
 ○梵語 同丁
 ○道者 廿六丁
 ○五石形の釜 同丁
 ○佐渡國の金の出 廿七丁
 ○あまのりみ 同丁
 ○ちやうとくき 同丁
 ○そがのりみ 同丁
 ○あまのりみ 同丁

○又吉備大臣此名 卅九丁
 ○法袋 四十丁
 ○形んぞ 同丁
 ○おち泣き 同丁
 ○柳枝松枝を文書せしむる 同丁
 ○癩病をかゝるいさや 同丁
 ○喜色は思ふのさうかい 同丁
 ○かぶぶとふ木印をおもむ 四十四丁
 ○宿老唐名を 同丁
 ○かろーぞろー 同丁
 ○狐はる 同丁
 ○後鳥羽天皇御諱のよみ 同丁
 ○いろやいふ福 同丁
 ○ちるよーて 四十二丁
 ○姫君おやの天中此をいさや 卅四丁
 ○皮子 四十三丁
 ○十二支の巳を美といさや 同丁
 ○かぬるを病死といさや 卅五丁
 ○獅子舞 王の鼻 同丁

○おひふるおもふ 四十六丁
 ○あゝ 四十七丁
 ○くまのあし 同丁
 ○さゝばとりの福 卅八丁
 ○人の立ちあししほを掃くを忌む 同丁
 ○まをよはしあがる 同丁
 ○只状 四十九丁
 ○重荷ふ小付 同丁
 ○鏡のうらふ鶴をいつさる 同丁
 ○文身の訓 同丁
 ○足袋 同丁
 ○あゝ 同丁
 ○祓を 同丁
 ○おみのほとあを 同丁
 ○用といふを 同丁
 ○北野の清浄といさや 五十丁
 合百十八ヶ條

九の巻

花乃雪

○今様合 壹丁

○春日社みづきと廻廊子造り同丁

○水世源殿造り之沖わら海一ニ丁

○新勅撰集れり同丁

○みちちのくの田うき丸同丁

○正堂正寝 四丁

○后妃内親王を院号れり同丁

○裾の長は乃り同丁

○そとさのいし同丁

○茶椀 同丁

○大燈の石佛 同丁

○みやうぬ 同丁

○あやみき今シのいし同丁

○かこシぬみ 同丁

○書出同丁

○かこシせん 同丁

○伎藝み大夫といふ名 同丁

○朝所 七丁

○柿の本葉のふ同丁

○かごといふ香物の名 同丁

○桃花坊のぬ同丁

○玉津名島の神 八丁

○いそのくち 十丁

○紀の國れつ瀬 同丁

○ふきりの浦 吹上同丁

○大燈の神他といふ名 十二丁

○かごといふ山同丁

○紫の名をいふ浦 十三丁

○黒牛瀨同丁

○妹背山 十六丁

○紀の國れ名同丁

○周武王死同丁

○道のい免同丁

○道 廿五丁

○葵沖が同丁

○そとといふ古人同丁

あやうる 廿六丁

○成湯が誓言言又周の武王 同丁

○當の字の流るるが由又此を今のゆりやと 廿七丁

○此のふ異なる字音のよきと 廿八丁

○諺り 廿九丁

○石見國なる志州の事 卅二丁

○口ゆきぬといふ事 卅四丁

○能といふ樂 卅五丁

○書紀の本書一書のもの 同丁

○美神と記さるるもの 卅七丁

○檜垣姫が事 卅八丁

○よもやほ 同丁

○あやうる 同丁

○目錄 卅九丁

○磯が丸 同丁

○きん 同丁

○海のもの 同丁

○引出物 同丁

○相撲前二日の儀 同丁

○百葉編 同丁

○家隆の事 同丁

○神を祀るる事 同丁

○合ふ十二條

○十の事

○山管

○物ほまびのころ 壹丁

○吉ふら傳はれるもの 同丁

- 鬼といふ物 同丁
- ある書阿ふやーまきり 四丁
- 和名抄といふ名 六丁
- かぐろ 七丁
- 譬といふものなり 同丁
- 物をとまてぬるなり 八丁
- 詩のよめる人の詞ニテ 同丁
- 神子左三條家冷泉家の事 九丁
- 長唄子の歌 十二丁
- 源氏物語をよむるなり 十三丁
- 系図中納言の墓又町角の亭 同丁
- 言旨法師の忌日 十四丁
- 定家申納言の詞 同丁
- 世傳の切なる夫婦の間志といふ 同丁
- 漢人の詞 同丁
- まきり 十五丁
- 李花集の詞 同丁
- 十五經 十六丁
- まきり 十七丁

- おのが悔ふなり 同丁
- 出雲風土記意宇郡の名の
- ゆゑをよむる文 十八丁
- 出雲國なる名水の穴 廿五丁
- 師をとるといふ事 廿八丁
- たゞ免を濁る詞 同丁
- 多んざく 廿九丁
- 形ある 同丁
- なほある 同丁
- 皇祖母尊 同丁
- 畿内七道のみ又郡目なり 卅丁
- 吉志舞 卅二丁
- 鈴奏 同丁
- 荷前 卅三丁
- 改年號 同丁
- 改錢 同丁
- 俊成定家師の書路へる事 卅四丁
- 定家中納言なり 同丁
- 高野山 同丁

- 佛法僧といふ名 同丁
- 親王御元服袍の文又色世六
- 多いふのいふ 世五丁
- 神事此箇 同丁
- 親王御元服袍の文又色世六
- 浅黄といふ色のいふ 同丁
- 子をにをちを久をまをやをもをあをるを 世六
- 羽のいふ望字のいふみ 同丁
- 片点諸点 世七丁
- 連歌乃花下といふいふ 同丁
- 幸崎の松 同丁
- むいふな 同丁
- ていふく 世八丁
- 賀茂社の神主祿宜権祿宜 同丁
- 春日社の預り 同丁
- 人の出まゝ跡を掃くるをいふ事 世九丁
- 日刑國懸社遷宮日時 同丁
- 賀茂行幸社司勸賞 同丁
- 御刀此事 四十丁
- 百座被 四十一丁

- 長寛三年齋王帰京 四十二丁
- 物ととり落さる時の作法 四十三丁
- 歌會 同丁
- 合五十九條
- 十一の巻
- 告文清書世尊寺家口傳 壹丁
- 天白御腫物治針をこをてをるを事 二丁
- 諏訪の縁起繪 三丁
- 高麗人本朝 同丁
- 三萬六千神の祭 五丁
- 田舎の神社ふさをきを位階を
- 換りるを事 同丁
- 室町殿の判の字此の事 同丁
- 慈照院大將軍元服の事 六丁
- 和琴 同丁

- 神社の湯立 七丁
- 多武峯北額のり 同丁
- 堯孝大僧都のり 八丁
- 志摩國の名どる 同丁
- 濱波國ふ古へ牙竿を貢りしとら跡 九丁
- 人のうほまけは死く後のり 同丁
- 皇極經世書といふかぶるは説 十丁
- うむまびの非車は影ふまき 十二丁
- 中間といふものり 同丁
- 定家卿の手を悪者といへる事 十三丁
- 強壯東衣紋男北眉をぬき髪後衣をもみ齒を漆るり 同丁
- いとゆる御所詞 同丁
- 信祿の借所のやう 十四丁
- 四豆の物修治ふ備へどといふり 同丁
- みちれくの名所 同丁
- 参入音聲退出音聲 十五丁
- 神樂は調子 同丁

- 東遊の起り 同丁
- 筆北白朝ふ傳道るり 十六丁
- かろえふ 同丁
- 琴吹きの事 同丁
- 又神樂の襦子 同丁
- 堀川天皇神楽を多く近方り
- 傳へさせ給ふり 十七丁
- 舞樂の傳り来つる次第 同丁
- 樂の道の書ともの名 同丁
- 肥後國の神楽歌 十九丁
- 後の母をわづらふきそのあま事 廿丁
- うごを思ふやどふあるり 廿二丁
- 肥後國阿蘇神社 同丁
- 神祇官の坐へて神の御靈實の焼亡生しり 廿二丁
- 三部神經といふ傳書のり 廿三丁
- 舊事大成經といふ傳書のり 同丁
- 春日社若宮社の神楽の歌 同丁
- 上代中も一種の文字をんをり 廿四丁

○をこ繕 廿五丁

○どうあ 同丁

○靈屋^{タニヤ} 廿六丁

○口きよ 同丁

○うらひとり魚の名 廿七丁

○假字のさ 同丁

○古事記傳の古の事よ入るまのり 同丁

○白國の字者おあやき^{廿八}

○萬葉集の安礼^{アレツク}とつる詞 卅丁

○萬葉集のむいころらど^{卅二}

○足しとととつるり^{卅三}

○おそく^{卅三}の弦 同丁

○刀の目貫とり物 同丁

○わろく^{卅四}此國の王商とり物

○人のいへる言 卅四丁

○高野の玉川のう^{卅四} 同丁

○そく^{卅五}とつる物とり物 卅五丁

○如意とり^{卅五}の枝とつる 卅六丁

○糸の糸 同丁

○幸生父母 同丁

○あき^{卅七}のな 同丁

○封字とつる^{卅七}のな 同丁

○か^{卅七}のり 卅七丁

○相撲人擯鼻禪のあ^{卅七} 同丁

○ゆ^{卅八}とつるか^{卅八}び^{卅八} 同丁

○源氏長者 同丁

○八丈絹 卅八丁

○は^{卅九}とつるね^{卅九}さ^{卅九} 同丁

○三十六町を一里とつる^{卅九} 同丁

○口^{卅九}とつるみ^{卅九}あ^{卅九}ら^{卅九} 卅九丁

合七十一ヶ條

十二代喜

山姥

○又妹背山 壹丁

○祿唯 二丁

○後鳥羽天白王踐祚即位の御事^{卅五}

○ 正月廿三日 六丁 ○ 二月廿初の午日 祝言と訪つる同丁
 ○ 八人のやまゝ 同丁 ○ 時をり 同丁
 ○ 十八日 祝言と訪つる同丁 ○ 穂をまきり又らうはつと訪つる同丁
 ○ 麻の葉をたもとにすま 同丁 ○ 風引くる浅咳氣をいさす同丁
 ○ 草をきり此國の謡歌 同丁 ○ 事代はけ免てそのきはふらるるを
 けりいさす同丁 ○ 幅をいさす同丁
 ○ きらゆる浅はかりの六をいさす同丁 ○ 同丁
 ○ かつ紙 同丁 ○ 扇をとって神紙をかむる同丁
 ○ 七月十五日を中えりいさす同丁 ○ 綿子 十丁
 ○ 年の始ふ病成飲事いさす同丁 ○ 檀紙と云檀紙とい別ある同丁

○ 長持といふ物 同丁 ○ 浅加也るをいさす組 同丁
 ○ 勅旨田 十一丁 ○ 式神をいさす同丁
 ○ 名簿おこりいさす同丁 ○ 鼻をいさす同丁
 ○ きざり 十二丁 ○ のをいさすてまき例 同丁
 ○ 俗言にのこのをいさす同丁 ○ 十三丁
 ○ 浅は御堂をいさす同丁 ○ 神社をいさす同丁
 ○ 歌ふ六義といさす同丁 ○ 事代主神と建御名方神 同丁
 ○ のをいさす 十五丁 ○ 濟所様大神所 十六丁
 ○ 平家物語をいさす同丁 ○ 旨者拾枝の名 同丁

- 開帳といふを 十七丁
- 魚北きりみといふ物 同丁
- 百年忌 同丁
- 借家 同丁
- 童名ぬ某丸といふを 同丁
- 某國の信人といふを 同丁
- ほろしれ酒といふを 同丁
- づしを射るを 同丁
- 拙者 同丁
- 愛發といふ名のよみ 廿二丁
- 八朔の礼尾花の粥 同丁
- 年のくれれ煤拂 十八丁
- 三體詩談義生部物語といふ 同丁
- 客殿 同丁
- 人をさして貴殿といふを 又
- 神郷公郷 二十九丁
- 朝鮮國より如藤清の人の
- 汁といふを 二十丁
- 入麩 同丁
- ひり(神)といふを 廿二丁

- 物やういふその道といふを 同丁
- 八景といふを 廿二丁
- 金銀やういふぬをいふを 廿三丁
- といふを 同丁
- 吉野此水を神社 廿五丁
- 大被臨時の建礼門といふを 廿七丁
- 妻をむくい海代といふ 同丁
- 本綿の布 廿九丁
- 伊勢大神宮御供をいふを 同丁
- よはむの類いふを多く集
- 麻向と佐伎との差又後を佐伎
- 大嘗會の齋場 廿四丁
- 定中納言をいふを 廿六丁
- わさくろい 廿八丁
- 葎の事 三十丁

○十二年此山より 同丁
 ○第五の音はほろろくき洞のそとに 廿二丁
 ○雪をあらためて書くとあつとろろく 此山より 同丁
 ○称唯の音 廿三丁
 ○有智子内親王 同丁
 ○童相撲 廿四丁
 ○焼尾荒鎮といふと被除神宴の
 洞倉儀束め被物を責むる事 同丁
 ○光孝天皇此御世より歌のりこ
 又おとまりなり 廿六丁
 ○武徳殿前競馬のまけごころの
 時ふ神樂儀奏せしり 廿七丁
 ○金葉集外花の歌のり 同丁

○飛鳥神社の御事 廿八丁
 ○合八十五條
 十三の巻
 ○万葉集に不定と思ふとく書し例 二丁
 ○同集に必ずりたるといふとあは在字とするなり 三丁
 ○嶋 同丁
 ○同集に生刀をとりし詞 五丁
 ○文字と流く書し例 六丁
 ○白馬節倉 同丁
 ○万葉集にあまぬふとりの事 七丁
 ○梅の花に歌よ書とすむ事 八丁

○萬葉集なる藤原宮之役民作歌 同丁
 ○平城天皇此神名 十丁
 ○歌合とりの此よりあり 十二丁
 ○右兵衛馬場 同丁
 ○伏見の會 同丁
 ○金葉集ふ輔仁親王と三宮と
 ○志多世徳より 同丁
 ○式乾門院のより 十二丁
 ○首柏と牡丹花と号するより 同丁
 ○後陽成天皇此御院号此より 同丁
 ○清輔朝長尚齒會 同丁
 ○七夕此歌ふさかふ此歌
 ○九月十三日此夜月とあづるより 同丁
 ○おやてく 同丁
 ○宗祇法師の傳 同丁
 ○文治元年四月神鏡神靈系ふ如入る世路より 十四丁

○寶劔の事 十五丁
 ○又寶劔のより 十六丁
 ○貞和四年に西海ふ沈く寶劔出たよりといふ事 同丁
 ○神鏡燒損の事 十七丁
 ○大炊殿を洞院と改めたるより 十八丁
 ○ふくまのいふ事 同丁
 ○ほろまげといふ事 十九丁
 ○やねまこ此本 同丁
 ○鴨子類をかく此名 同丁
 ○九條廢帝 同丁
 ○臣此王を娶るより 二十丁
 ○志づつたる山林法をみよりといふ事 廿一丁
 ○鴨河を掘りより 同丁
 ○鳥羽法皇宗徳上皇慈野御幸御出立此事 廿三丁
 ○興福寺維摩會講師の請 同丁
 ○筑紫の觀音寺燒比のより 廿四丁

- 八十島祭の使 同丁
- 六角堂焼亡 同丁
- 冬羽の膳光明院の寶物の事廿五丁
- 萩の大木れる事 同丁
- 遠江國より大神宮小神神衣袋織てなる事 同丁
- 出雲國意宇郡神魂神社 同丁
- 出雲北太社の御事 廿六丁
- 同社金輪の造營狀圖 廿七丁
- 讚岐國人女とよもく葉成
- 信濃國の或村に神事 廿九丁
- 嵯峨天皇四十御賀 同丁
- 越前國荒道山アラチ 同丁
- 諸國小社の祿宜祝の事 三十丁
- 長祿の今いぬまきいふ海ぬきいふ事 同丁
- 兼早月日とあやふきぬきいふ事 同丁

- 毛ぬきいふ御 卅一丁
- 志保り 同丁
- ぬきいふ御 卅二丁
- 志の免の祝 同丁
- 祿宜み色 同丁
- 親王宣旨の書廿二丁
- 十を修トラといふ事 同丁
- とよもくといふ事 同丁
- 天文博士連歌 同丁
- 物の次第を一番二番といふ事卅三丁
- 親王三國太守の御事廿四丁
- 諸王の事 卅四丁
- 箱根の事廿五丁
- 花の宴 同丁
- 芳宜花の宴 同丁
- 佛佛名の御事卅六丁
- 灌佛れい御り 同丁
- 更名 同丁
- 唐法小僧しんの詔書の事 同丁
- 女御 卅七丁

○竟宴 卅八丁
 ○東宮雅院 卅九丁
 ○大歌所 同丁
 上ふ叙せらるる事 四十丁
 雅をさるる事 同丁
 天ふ配せらるる事 同丁
 ○常陸國なる大洗儀前神 同丁
 ○神出く多用は給ふ 曆の事 同丁
 ○御聖會 四十三丁
 ○白人 同丁
 ○神社の號某明神といふ事 同
 ○又八十島の祭 同丁
 ○天下此諸神おこなへて正六位
 ○神社をてらうしとて佛の
 ○漢より此天神の祭 天皇儀
 ○子日此宴 四十二丁
 ○志ちまつ此濁音の事 四十二丁
 ○方違の事 四十四丁
 ○私に至 四十五丁

○神社を謀り宮と申はる事 四十丁
 ○應天門朱雀門羅城門の名はる事 四十六丁
 ○七高山といふ事 同丁
 ○鴨河の韓橋 四十七丁
 ○庭をを角かきしむる事 同丁
 ○はるな此橋 同丁
 ○遍照僧正七十賀此宴を給ふ事 同丁
 合百五條
 十四の巻
 法りく桂
 ○君手弒なり父を弒せるまふは海くや 壹丁
 ○神ふ新して白子を求め給ひし御事 二丁

- 百濟國として天降く國を建てる神を祀らる事 同丁
- おまねこきしを神子と詔給ふ事 三丁
- 美國の使り神酒を給ふ事 同丁 ○神社の位階たる事 四丁
- 左右京朱雀路朱雀門大極殿瓦ふき事 同丁
- 南殿 同丁
- 風土記のおこり 同丁
- 柑子とくわめて液をまらる事 同丁
- 裳瘡 同丁
- 五日此節葛蒲漫 同丁
- 萬葉集にみゆ事 同丁
- 書紀欽明天皇此御卷の事 五丁
- 婦女此殿の制 六丁
- 經籍 七丁
- 諸國郡此圖 同丁
- 味將 八丁
- 夜寝を起てある事 九丁

- 人の名此和字の事 九丁
- 今世人の名たる事 同丁
- 紅梅の假字 十丁
- 牛を殺して漢神を祭りし事 同丁
- 孔丘と文宣王といふ事 同丁
- 伊勢大神宮寺 同丁
- 交野此御狩 十三丁
- 後撰集拾遺集の事 十四丁
- 美福門院石清水宮小神與を献る事 同丁
- 一と一は異なる事 同丁
- 今世人の名たる事 同丁
- 鹿をかせらる事 同丁
- 牛を殺して漢神を祭りし事 同丁
- 氏族を腹といふ事 同丁
- 姓のかきねお骨字を書る事 十二丁
- 皇太子伊勢大神宮小御宇の事 同丁
- 新撰字鏡 同丁
- 奈良此大佛像より流る事
- 仁壽殿顛倒の事 同丁

○かろれみのうらひ 同丁 ○繪の事 四ヶ條 十六丁
 ○浦 十八丁 ○譯文あるせはるるみなりふ
 ○信ぞあづき事 廿三丁 ○日食月食 同丁
 ○世の中此条の中ハ皆神の清きことなる事 廿四丁
 ○聖人をえるむ事 同丁 ○ト道 廿五丁
 ○華夷 同丁 ○か人の語うしくいせれる事 同丁
 ○論語 五ヶ條 廿六丁 ○はやる 廿七丁
 ○御字 廿八丁 ○人のうほききはあくある事 同丁
 ○紙の用 廿九丁 ○古より後世はまされ事 同丁
 ○某の家とりたるを其れ亭やかと事 三十丁

○名所 同丁 ○混本 三十一丁
 ○多と孔 同丁 ○又きや孔のやう 同丁
 ○されはむ 三十二丁 ○教誡 同丁
 ○孟子 二ヶ條 三十三丁 ○如是我聞 三十四丁
 ○道教あるか國の王も此まきなる事 同丁
 ○佛道 三十五丁 ○世の人ほこの道あるはさる事 同丁
 ○宋の代明代 三十六丁 ○神獸神鷹 同丁
 ○鄂羅斯といふ國も控嚙爾といふ國 三十七丁
 ○天 三十八丁 ○國を治むるは事同 同丁
 ○板板ト齋物語 三ヶ條 三十九丁 ○漢書の説と皇國の古傳説よと 同丁

○饌ニケ條 四十一丁

○又同丁

○伊勢國 同丁

○米粒を佛汁ほろろなること

○ちりく事 四十三丁

○世の人れとさうしきやうりや

○よしとまる事 四十四丁

○假字 同丁

○から國の初流る事 四十五丁

○佛經の文 同丁

○神れ多くみ 同丁

○道 四十六丁

○合九十二條

○改量條 三十四丁

○改量條 三十二丁

○條 同丁

○改量條 同丁

○改量條 同丁

○改量條 同丁

○別本 三十二丁

三十二

